

## [2] 研究開発単位 I 「未来航路」

### (1 年次生)

#### (1) 校内研修

- 講演『生きていく私～これからの人生をどう生きていくか～』  
就実大学 経営学部経営学科 教授 林 俊克 氏

#### (2) GPS-Academic

- ベネッセコーポレーションの GPS-Academic を受検し、その結果から「批判的思考力」・「協働的思考力」・「創造的思考力」の 3 点について、自分の強み・弱みを理解し、今後の「未来航路」・「SOZAN STEAM」で伸ばしたい思考力について考える。

#### (3) グローバル人材とは？

- 本校が目指す人材像『『和して流れず』、『松柏』の精神で、次代を担う高い志を持ち、未来の岡山と世界の Well-being の実現に貢献するグローバル・リーダー』を自分の言葉で具体的に定義し、自分が目指す人物像を明確にする。
- 自分が定義した「グローバル人材」に自分が向いているところ、自分が定義した「グローバル人材」になるために、今後の「未来航路」・「SOZAN STEAM」を通して身につけたい力について考える。

#### (4) 課題研究基礎

- 本格的な課題研究の前の練習として、班ごとに「身近でローカルな課題」を設定し、それに対する解決策を提案する。
- テーマ設定⇒情報収集⇒情報分析⇒スライド作成⇒クラス発表の一連の流れを経験する。

#### (5) グローバル講演会

- グローバル講演会『課題研究の方法と実践』  
ノートルダム清心女子大学 文学部現代社会学科 教授 森 泰三 氏

#### (6) 課題研究準備

- 本格的な課題研究の準備として、班ごとにテーマと研究方法を考える。
- 班ごとに考えたテーマと研究方法についてプレゼンテーションを行い、大学の先生から助言をいただく。

#### (7) 課題研究

- 大学の先生からの助言を生かし、各班の研究テーマ・研究内容・研究方法の軌道修正を図り、研究計画書を完成させる。

#### (8) 2 年生課題研究発表会見学

- 2/1 (水) の 2 年生の課題研究発表会を見学し、これからの自分たちの課題研究に向けて気持ちを新たにする。

## (2年次生)

「世界や社会の諸問題を知る」ことをテーマとして、課題研究をとおして6つの資質・能力を身につけ、社会で活躍できるグローバル人材を目指す活動に取り組んでいる。



今年度も昨年度に引き続き、SDGsの17の目標を“Life”、“Welfare”、“Environment”の3つの領域に分類し、SDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」と関連付けながら、1年次の「課題研究基礎」で決定したテーマに基づいて課題研究を進めた。今年度の班数は国際塾7班と、それ以外の生徒59班の計66班であった。コロナ禍で活動が制限されたり当初の予定変更を余儀なくされたりしたことはあったものの、大学教授による指導助言会は対面で実施することができ、研究を深めたり軌道修正しながらすべての班が課題研究を完了することができた。なお、今年度は昨年度より班の数が増加したこともあり、大学教授（アドバイザー・スタッフ）の数を2名増員した。これにより、すべての班が昨年度同様にきめ細かい指導をさせていただくことができた。

2月には課題研究発表会を実施し、ポスターセッションと代表班による発表会を行い、全員の生徒がそれまでの研究の成果を発表する機会を設けることができた。また、すべての班が課題研究論文を作成し、年度末には全論文を掲載した「課題研究論文集」を作成した。

## (3年次生)

3年次生の「未来航路Ⅲ」は選択科目である。選択した生徒の進路希望の学部・学科に関連した学問領域を意識しながら、課題研究をより学術的に客観データの収集・分析・表現、内容の論理的展開に重点を置いて指導した。選択者は6名で、それぞれ色育、インクルーシブ教育、公立夜間中学校、養護教諭、孤独、安楽死について課題研究を行った。

進路希望と関連付けた学術的な課題研究をめざすために、次のような手順を進めた。

- ・研究内容のキーワードを考える。
- ・リサーチクエスチョンを設定する。
- ・先行研究・事例（「CiNii」「Google Scholar」）を考察する。
- ・仮タイトル、目的、方法について検証する。
- ・研究計画書を作成する。
- ・文献調査などを行い、考察する。
- ・研究論文を作成する。
- ・「まとめ」の内容と「目的」について整合性を考える。

7月に3年団の先生に対して中間発表を行い、指導助言をもらい研究を深め、最終論文を完成させ、12月に最終発表を校内で行った。